京大広報

KYOTO UNIVERSITY

※ P5962 参照

※ P5971 参照

※ P5972 参照

※ P5963 参照

※ P5973 参照

2024.5
No. 774

目 次

［大学の動き］
- 理事が発令される …… 5952
- 副学長が発令される …… 5952
- 副理事が発令される …… 5953
- 理事補が発令される …… 5953
- 部局長の交替等 …… 5954
- 第10回京都大学−稲盛財団合同京都賞シンポジウムを開催 …… 5958
- 名誉教授称号授与式を挙行 …… 5960
- 永年勤続功労表彰式および退職者功労表彰式を挙行 …… 5961
- 第16回京都大学たちばな賞（優秀女性研究者賞）表彰式を挙行 …… 5962
- 学童保育所 京都大学キッズコミュニティKuSuKuで親子イベントを開催 …… 5963
- 2023年度「女子学生チャレンジプロジェクト」成果発表会を開催 …… 5964
- 令和５年度「総長賞表彰式」を挙行 …… 5965
- 令和５年度大学院学位授与式を挙行 …… 5966
- 令和５年度卒業式を挙行 …… 5971
- 令和６年度学部入学式を挙行 …… 5972
- 令和６年度大学院入学式を挙行 …… 5973
- 「京都大学ポスターセッション 2023」を実施 …… 5976

［部局の動き］
- 第7回マヒドン大学 On-site Laboratoryワークショップを対面現地とオンラインのハイブリッドで開催 …… 5979
- バンコクでKyoto University alumni reunionを開催 …… 5981
- 医学部附属病院で令和5年病院長賞表彰式を挙行 …… 5982
- 第19回京都大学附置研究所・センターシンポジウム／京都大学松本講演会を開催 …… 5983

［寸　言］
ダイバーシティ＆インクルージョン（まー、ええか）
山本 清博 …… 5985

［随　想］
京都大学・コーネル大学国際連携コースへの願い
名誉教授 **原 良憲** …… 5986

［洛　書］
「表面的」な触媒の理解を目指して　**小板谷 貴典** …… 5987

［栄　誉］
- 今堀 博 国際高等教育院教授が紫綬褒章を受章 …… 5988
- 清水 昌 名誉教授が日本学士院賞を受賞 …… 5988
- 緒方芳子 数理解析研究所教授が「第44回猿橋賞」を受賞 …… 5989
- 本庶 佑 高等研究院特別教授に国立台湾大学の名誉医学博士号が授与される …… 5989

［探　訪］
- ベトナム国家大学ハノイ校スプリングスクール ～広報課員が行く～ …… 5991

京都大学

所属・職名については、行事開催時点のものです。

大学の動き

理事が発令される

4月1日付けで新たに理事が任命されました。任期は以下のとおりです。

総務、労務、人事、危機管理担当
小幡　泰弘（新任）
【令和6年6月30日まで】

研究推進担当
北川　進（新任）
【令和6年9月30日まで】

産官学連携担当（非常勤）
澤田　拓子（再任）
【令和8年3月31日まで】

広報担当
野崎　治子（再任）
【令和8年3月31日まで】

目次に戻る

副学長が発令される

4月1日付けで新たに副学長が任命されました。任期は令和6年9月30日まで。

国際高等教育院担当
大嶋　正裕（新任）

国際戦略担当
河野　泰之（再任）

評価、研究拠点担当
時任　宣博（再任）

大学の動き

学部教育改革担当
宮川　恒（再任）

安全衛生担当
米田　稔（再任）

目次に戻る

副理事が発令される

4月1日付けで新たに副理事が任命されました。任期は令和7年3月31日まで。

桂キャンパス担当
立川　康人（再任）

宇治・遠隔地キャンパス担当
中北　英一（再任）

目次に戻る

理事補が発令される

補佐する理事	氏　名	任　　期	
渉外担当理事	廣　井　良　典	令和６年４月１日～令和６年９月30日	（新任）
財務担当理事	草　野　真　樹	令和６年４月１日～令和６年９月30日	（新任）
広報担当理事	塩　瀬　隆　之	令和６年４月１日～令和８年３月31日	（新任）
情報基盤担当理事	岡　部　寿　男	令和６年４月１日～令和６年９月30日	（新任）

目次に戻る

大学の動き

部局長の交替等

【新任】

文学研究科長・文学部長

出口康夫 文学系（大学院文学研究科）教授が、木津祐子 文学研究科長・文学部長の後任として選出されました。任期は令和６年４月１日から令和８年３月31日まで。

公共政策連携研究部長・公共政策教育部長

曽我謙悟 法学系（大学院公共政策連携研究部）教授が、待鳥聡史 公共政策連携研究部長、公共政策教育部長の後任として選出されました。任期は令和６年４月１日から令和８年３月31日まで。

経済学研究科長・経済学部長

若井克俊 経済学系（大学院経済学研究科）教授が、依田高典 経済学研究科長・経済学部長の後任として選出されました。任期は令和６年４月１日から令和８年３月31日まで。

経済研究所長

關口 格 統合経済学系（経済研究所）教授が、西山慶彦 経済研究所長の後任として選出されました。任期は令和６年４月１日から令和８年３月31日まで。

エネルギー科学研究科長

馬渕 守 エネルギー科学系(大学院エネルギー科学研究科) 教授が、平藤哲司 エネルギー科学研究科長の後任として選出されました。任期は令和６年４月１日から令和７年３月31日まで。

大学の動き

地球環境学堂長・地球環境学舎長

田中千尋 生物生産環境学系（大学院地球環境学堂）教授が、勝見 武 地球環境学堂長、地球環境学舎長の後任として選出されました。任期は令和６年４月１日から令和８年３月31日まで。

学術情報メディアセンター長

森 信介 情報学系（学術情報メディアセンター）教授が、岡部寿男 学術情報メディアセンター長の後任として選出されました。任期は令和６年４月１日から令和８年３月31日まで。

国際高等教育院長

大嶋正裕 工業化学系（大学院工学研究科）教授が、宮川 恒 国際高等教育院長の後任として指名されました。任期は令和６年４月１日から令和６年９月30日まで。

※職名は選出時のものです。

アジア・アフリカ地域研究研究科長

山越 言 地域研究学系（大学院アジア・アフリカ地域研究研究科）教授が、竹田晋也 アジア・アフリカ地域研究研究科長の後任として選出されました。任期は令和６年４月１日から令和８年３月31日まで。

アフリカ地域研究資料センター長

伊谷樹一 地域研究学系（大学院アジア・アフリカ地域研究研究科）教授が、高橋基樹 アフリカ地域研究資料センター長の後任として選出されました。任期は令和６年４月１日から令和８年３月31日まで。

農学研究科長・農学部長

田尾龍太郎 農学資源経済学系（大学院農学研究科）教授が、澤山茂樹 農学研究科長・農学部長の後任として選出されました。任期は令和６年４月１日から令和８年３月31日まで。

大学の動き

数理解析研究所長

大木谷耕司 数理解析学系（数理解析研究所）教授が、小野 薫 数理解析研究所長の後任として選出されました。任期は令和6年4月1日から令和8年3月31日まで。

フィールド科学教育研究センター長

舘野隆之輔 生態フィールド学系（フィールド科学教育研究センター）教授が、朝倉 彰 フィールド科学教育研究センター長の後任として選出されました。任期は令和6年4月1日から令和7年3月31日まで。

化学研究所長

島川祐一 統合化学系（化学研究所附属元素科学国際研究センター）教授が、青山卓史 化学研究所長の後任として選出されました。任期は令和6年4月1日から令和8年3月31日まで。

エネルギー理工学研究所長

片平正人 エネルギー理工学系（エネルギー理工学研究所）教授が、森井 孝 エネルギー理工学研究所長の後任として選出されました。任期は令和6年4月1日から令和7年3月31日まで。

防災研究所長

堀 智晴 防災学系（防災研究所附属水資源環境研究センター）教授が、中北英一 防災研究所長の後任として選出されました。任期は令和6年4月1日から令和8年3月31日まで。

成長戦略本部長

室田浩司 産官学連携本部特定職員が、成長戦略本部長に指名されました。任期は令和6年4月1日から令和6年9月30日まで。

※職名は選出時のものです。

大学の動き

【再任】

経営管理研究部長・経営管理教育部長

澤邉紀生 経済学系（大学院経営管理研究部）教授が、経営管理研究部長・経営管理教育部長に再任されました。任期は令和６年４月１日から令和８年３月31日まで。

白眉センター長

髙倉喜信 白眉センター特定職員（特任教授）が、白眉センター長に再任されました。任期は令和６年４月１日から令和８年３月31日まで。

学際融合教育研究推進センター長

時任宣博 特定教授が、学際融合教育研究推進センター長に再任されました。任期は令和６年４月１日から令和７年３月31日まで。

人間・環境学研究科長・総合人間学部長

浅野耕太 人間・環境学系（大学院人間・環境学研究科）教授が、人間・環境学研究科長・総合人間学部長に再任されました。任期は令和６年４月１日から令和７年３月31日まで。

薬学研究科長・薬学部長

竹本佳司 薬学系（大学院薬学研究科）教授が、薬学研究科長・薬学部長に再任されました。任期は令和６年４月１日から令和８年３月31日まで。

東南アジア地域研究研究所長

三重野文晴 地域研究学系（東南アジア地域研究研究所）教授が、東南アジア地域研究研究所長に再任されました。任期は令和６年４月１日から令和８年３月31日まで。

医生物学研究所長

河本 宏 医生物系（医生物学研究所）教授が、医生物学研究所長に再任されました。任期は令和６年４月１日から令和８年３月31日まで。

iPS 細胞研究所長

髙橋 淳 iPS細胞学系（iPS細胞研究所）教授が、iPS細胞研究所長に再任されました。任期は令和６年４月１日から令和８年３月31日まで。

研究連携基盤長

辻井敬亘 統合化学系（化学研究所）教授が、研究連携基盤長に再任されました。任期は令和６年４月１日から令和８年３月31日まで。

ヒト行動進化研究センター長

中村克樹 全学教員部（ヒト行動進化研究センター）教授が、ヒト行動進化研究センター長に再任されました。任期は令和６年４月１日から令和８年３月31日まで。

大学の動き

生存圏研究所長

山本 衛 生存圏科学系（生存圏研究所）教授が、生存圏研究所長に再任されました。任期は令和６年４月１日から令和８年３月31日まで。

環境安全保健機構長

米田 稔 地球工学系（大学院工学研究科）教授が、環境安全保健機構長に再任されました。任期は令和６年４月１日から令和６年９月30日まで。

※職名は選出時のものです。

国際戦略本部長

河野泰之 地域研究学系（東南アジア地域研究研究所）教授が、国際戦略本部長に再任されました。任期は令和６年４月１日から令和６年９月30日まで。

※職名は選出時のものです。

目次に戻る

第10回京都大学－稲盛財団合同京都賞シンポジウムを開催

第10回京都大学－稲盛財団合同京都賞シンポジウムを、２月３日（土）にJPタワーホール＆カンファレンスにて開催しました。本シンポジウムは2014年から毎年開催しているもので、一般市民、高校生、研究者など合わせて232名の参加がありました。

本シンポジウムは、本学の主催、公益財団法人稲盛財団の共催により、日本が世界に誇る国際賞である京都賞（公益財団法人稲盛財団主催）の分野を対象に、講演などを通じてさまざまな出会いを生み、各分野の新たな発展へとつながる場を提供するとともに、次世代の研究者の育成や、最先端の学術・芸術の動向や魅力を広く社会に発信することを目的として毎年開催しています。

今回は、「材料科学がひもとく未来の姿」を統一テーマとして、木本恒暢 工学研究科教授、小野輝男 化学研究所教授、矢野浩之 生存圏研究所教授の３名が講演を行いました。講演では、省エネルギーの半導体の有用性や開発の面白さ、記憶媒体の開発の歴史とスピントロニクスのデバイスへの応用、さらには植物から生成された素材を使った車の製作など、工学・理学・農学の分野から見た材料科学の研究が幅広く紹介されました。

講演を行う木本教授

講演を行う小野教授

講演を行う矢野教授

大学の動き

講演後には、サイエンスライターの吉成真由美氏をリーディング・モデレーターとして迎え、講演者によるパネルディスカッションが行われました。パネルディスカッションでは、材料科学がどういった研究なのかといった概形や過去の重要な発見の説明に始まり、材料科学を学び始めたきっかけ、材料科学の未来に至るまで話題は多岐に及びました。パネルディスカッション中は笑いも起きるなど、参加者にとって材料科学や研究者を身近に感じる時間となりました。

参加者からは、「とても興味深く拝聴いたしました。情熱を傾けた絶え間ない研究にはセレンディピティの瞬間が訪れるものなのかと思える一端にも触れられ、心に残る名講演だったと思います」、「金属材料しか知らない時代に学んできた自分にとって、このたびのテーマは非常に新鮮で、現今の生活と関連付けて興味深く聞くことができました」といった感想が寄せられ、盛況のうちに終了しました。

リーディング・モデレーターを務める吉成氏

パネルディスカッションの様子

集合写真

【関連リンク】

本シンポジウムの動画を、以下のWebサイトで公開しています。

京都大学―稲盛財団合同京都賞シンポジウム

https://kuip.hq.kyoto-u.ac.jp/

（渉外・産官学連携部（渉外課））

目次に戻る

大学の動き

名誉教授称号授与式を挙行

4月4日（木）午後4時から、百周年時計台記念館において、理事、副理事、副学長の出席のもとに名誉教授称号授与式を挙行しました。

総長より称号を授与された方は、次の69名です。

氏　名	推薦部局	氏　名	推薦部局
足立　芳宏	農学研究科	青山　卓史	化学研究所
中﨑　鉄也	農学研究科	河野　泰之	東南アジア地域研究研究所
金光　義彦	化学研究所	黒木　裕士	医学研究科
磯　　祐介	情報学研究科	垣塚　　彰	生命科学研究科
松田　道行	生命科学研究科	中山　和久	薬学研究科
井口　正人	防災研究所	岡　　昌吾	医学研究科
星野　　敏	地球環境学堂	矢﨑　一史	生存圏研究所
佐藤　淳二	人文科学研究所	生田　宏一	医生物学研究所
廣野　由美子	人間・環境学研究科	松村　朋彦	文学研究科
有賀　哲也	理学研究科	佐藤　俊哉	医学研究科
朝倉　　彰	フィールド科学教育研究センター	矢野　浩之	生存圏研究所
森　　和俊	国際高等教育院	松原　誠二郎	工学研究科
合田　昌史	人間・環境学研究科	髙木　直史	情報学研究科
萩原　正敏	医学研究科	田畑　泰彦	医生物学研究所
萩原　理加	エネルギー科学研究科	柴田　昌三	地球環境学堂
平藤　哲司	エネルギー科学研究科	速水　洋子	東南アジア地域研究研究所
森本　幸生	複合原子力科学研究所	髙橋　良輔	医学研究科
原　　良憲	経営管理研究部	寺嶋　孝仁	理学研究科
STEWART, Timothy William	国際高等教育院	川本　卓男	環境安全保健機構
前田　雅弘	法学研究科	米田　　稔	工学研究科
白岩　立彦	農学研究科	渡邊　隆司	生存圏研究所
吉田　万里子	国際高等教育院	桂山　康司	人間・環境学研究科
永江　知文	理学研究科	籠谷　直人	人文科学研究所
梶井　克純	地球環境学堂	森井　　孝	エネルギー理工学研究所
杉村　博之	工学研究科	岩田　知孝	防災研究所

大学の動き

氏　名	推薦部局
丸山　敬	防災研究所
松坂　修二	工学研究科
田中　庸裕	工学研究科
牛島　省	学術情報メディアセンター
廣岡　博之	農学研究科
古川　壽亮	医学研究科
入江　一浩	農学研究科
橋本　訓	環境安全保健機構
大嶋　正裕	工学研究科
山路　敦	理学研究科

氏　名	推薦部局
浅見　淳之	農学研究科
川濵　昇	法学研究科
恒藤　暁	医学研究科
角　哲也	防災研究所
佐藤　卓己	教育学研究科
吉川　真司	文学研究科
酒井　啓亘	法学研究科
引原　隆士	工学研究科
梶田　将司	情報環境機構

（人事部（人事企画課））

目次に戻る

永年勤続功労表彰式および退職者功労表彰式を挙行

永年勤続功労表彰式および退職者功労表彰式を、3月29日（金）に本部棟5階大会議室において挙行し、湊 長博 総長、被表彰者17名が出席しました。

本表彰は、勤続年数が30年以上の教職員に対し、その永年にわたる功労を讃えるためのもので、2023年度の被表彰者は37名でした。

表彰状授与

祝辞を述べる湊総長

出席した被表彰者との集合写真

大学の動き

表彰式では出席した被表彰者の氏名を紹介した後、湊総長が代表者に表彰状を授与し、祝辞を述べました。祝辞では永年本学の発展のために一人ひとりが尽力してきたことに対し、謝意が表されました。

祝辞の後は各々交流を深め、和やかな雰囲気の中、式は終了しました。

（人事部（労務課））

目次に戻る

第16回京都大学たちばな賞（優秀女性研究者賞）表彰式を挙行

優れた研究成果を挙げた本学の若手女性研究者を顕彰する制度である、京都大学たちばな賞（優秀女性研究者賞）の第16回表彰式を、3月1日（金）に挙行しました。表彰式は、ウェブ会議システムを使用したライブ配信形式で実施し、学内外から多くの視聴がありました。

最初に選考委員長である稲垣恭子 理事・副学長から、選考経緯に関する報告を交えた開会の挨拶があり、引き続き、たちばな賞学生部門受賞者の竹邊日和さん（工学研究科博士後期課程1年）、研究者部門受賞者の福田エレン秀美 情報学研究科准教授に、湊 長博 総長から表彰状と記念楯が授与されました。続いて、副賞の「ワコール賞」が川西啓介 株式会社ワコール代表取締役社長執行役員から贈呈されました。

また、優秀女性研究者賞奨励賞受賞者のヤンラン・ワンさん（工学研究科博士後期課程3年）、サンジータ・シャルマ・ポーカレルさん（アジア・アフリカ地域研究研究科日本学術振興会外国人特別研究員）、鳥井美江 医学研究科助教にも、同じく湊総長から表彰状と川西代表取締役社長執行役員から副賞の「ワコール賞」が贈呈されました。

表彰状・記念楯授与の様子

受賞者および関係者

祝辞を述べる湊総長

祝辞を述べる川西代表取締役社長執行役員

大学の動き

その後、湊総長から受賞者へ祝福の言葉と女性研究者のさらなる活躍を期待するエールが送られ、川西代表取締役社長執行役員から受賞者へ祝辞が述べられました。

引き続いて、たちばな賞受賞者による研究発表が行われ、竹邊さんは「光学活性かご型炭化水素分子群の網羅的合成とネットワーク型データベース化によるChemical Spaceの構築」について、福田准教授は「多目的最適化問題に対する降下法の研究」について発表し、会場の関係者は熱心に聞き入っていました。

最後に、奨励賞受賞者のワンさん、ポーカレルさん、鳥井助教から挨拶があり、盛況のうちに閉幕しました。

（人事部（職員育成課））

目次に戻る

学童保育所 京都大学キッズコミュニティ KuSuKu で親子イベントを開催

学童保育所 京都大学キッズコミュニティ KuSuKuでは、本学の研究者・元教員、学外の研究者などが講師として参加し、小学生に本学の研究者やその研究フィールドに触れてもらい、研究や科学の面白さ、調べてわかることの楽しさに気づくことのできるアカデミックプログラムを提供しています。

このたび、時枝 正 米国スタンフォード大学教授によるアカデミックプログラム「数のいらない算数」を、親子参加型イベントとして開催しました。

当日は、子どもたちが、紙とクリップと輪ゴムを使って、どのようなつながり方になるかを予測しながら、足し算、引き算の意味を考えていました。ほかにもおもちゃを使った数学の研究について紹介があり、保護者も童心に帰って楽しみました。

【関連リンク】

学童保育所 京都大学キッズコミュニティ（KuSuKu）－京都大学男女共同参画推進センター
https://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/support/care/community/

子どもたちに向けて話す時枝教授

プログラムの様子

（人事部（職員育成課））

目次に戻る

大学の動き

2023年度「女子学生チャレンジプロジェクト」成果発表会を開催

2023年度「女子学生チャレンジプロジェクト」に採択された6チームによる成果発表会を、3月27日（水）に開催しました。「女子学生チャレンジプロジェクト」とは、ダイバーシティ&インクルージョンの推進を目的として本学で実施している取り組みの一つであり、女子学生が、自らの好奇心や探求心を核としつつ、自分とは異なるさまざまな視点から議論し協働するプロセスの経験を通じて、研究の面白さに気づき、新しい課題にチャレンジする活動に奨学金を支給しています。

当日、会場では、本プロジェクトの企画、審査を担当した男女共同参画推進センター専門部会の委員をはじめ関係者が発表を聞きました。

蓮尾昌裕 理事補（男女共同参画担当）の挨拶に続いて、各チームによる発表が行われました。いずれも、自身の興味関心に基づいて設定した研究テーマに対して、チームで協働して課題探求した大変興味深い内容であり、会場の参加者からも多くの質問がありました。

終わりに、稲垣恭子 理事（男女共同参画担当）は、「将来自分の専門分野の研究を深めていく際に、このプロジェクトの経験で得た広い視野を生かしてほしい」との期待を込めたコメントがありました。

【関連リンク】

各チームの成果発表の内容については、以下のページをご覧ください。

男女共同参画推進センター 2023年度「女子学生チャレンジプロジェクト」実施内容
https://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/story/w-challenge/w-challenge2023/

蓮尾理事補による挨拶

学生による発表１

学生による発表２

稲垣理事による全体講評

（人事部（職員育成課））

目次に戻る

大学の動き

令和５年度「総長賞表彰式」を挙行

学業・課外活動・社会貢献活動等において顕著な活躍をし、本学の名誉を高めた学生および学生団体を表彰する「京都大学総長賞」の令和５年度表彰式を、3月14日（木）に挙行しました。

今回は、全14件の推薦の中から選考の結果、学業から３名、課外活動から３名の受賞者を表彰しました。

湊 長博 総長が表彰状等の授与を行った後、湊総長と受賞者が受賞内容について懇談を交わし、和やかな雰囲気の中、閉式となりました。

表彰式の様子

受賞者および関係者

令和５年度総長賞受賞者一覧

被推薦者・団体名	推薦対象分野	推薦理由・受賞歴等
農学研究科応用生物科学専攻 DC３回生 白井（シライ） 雄（ユウ）	学業	昆虫ゲノム編集に革命的な技術革新を引き起こし、昆虫科学の新たな時代を開拓した。本成果は掲載誌の表紙に採用され、国内外のメディアで報道された。学会にて６件の賞を受賞し、筆頭著者として計５報の学術論文を公表した。
医学研究科医学専攻 DC４回生 近藤（コンドウ） 知大（トモヒロ）	学業	わが国のがんゲノム医療の発展に貢献し、国際誌へ15報の査読論文を刊行した。これらの業績が評価され第36回日本内科学会奨励賞・第23回日本癌治療学会奨励賞等を多数受賞した。
教育学研究科教育学環専攻 DC３回生 櫃割（ヒツワリ） 仁平（ジンペイ）	学業	俳句の審美性研究に取り組み、国際学術雑誌に７編の論文（Computers in Human Behavior 誌など）を発表し、国内でも２件の大会発表賞を受賞している。
法学部 ２回生 鈴木（スズキ） 亮太朗（リョウタロウ）	課外	全日本学生ヨット個人選手権において準優勝、全国七大学総合体育大会ヨット競技において MVP 賞を受賞するなど、国内の主要大会にて数多くの好成績を収めた。準優勝は京都大学生としては初、国立大学生としては30年ぶりの快挙。
総合人間学部総合人間学科 ４回生 山田（ヤマダ） 祐真（ユウマ）	課外	クラシックのサクソフォンコンクールの全国大会にて、音楽大学の学生ばかりのエントリーの中、完全独学（指導者なし）でサクソフォンを勉強し、第５位（1、2、３位なし、実質３位）を受賞した。

大学の動き

被推薦者・団体名	推薦対象分野	推薦理由・受賞歴等
地球環境学舎 環境マネジメント専攻 MC２回生 田中（タナカ）　花音（カノン）	課外	植物画の国際コンペティションで入選し、さらに科学イラストを用いた教育活動で京都環境賞を受賞した。

（教育推進・学生支援部（厚生課））

目次に戻る

令和５年度大学院学位授与式を挙行

3月25日（月）に、京都市勧業館みやこめっせにおいて、教育・学生・入試担当理事、関係部局長の出席のもとに、令和５年度大学院学位授与式を挙行しました。湊 長博 総長から、代表者に対し学位記が手渡された後、総長の式辞をもって終了しました。

式辞を述べる湊総長

学位記授与の様子

学位授与者数は次のとおりです。

修士

学　位　名	2024年3月25日付授与者数			左記のうち留学生数			累　計
	男	女	計	男	女	計	
修士（文学）	62	41	103	8	11	19	5,659
修士（教育学）	19	15	34	1	3	4	1,726
修士（法学）	6	7	13	3	5	8	1,594
修士（経済学）	38	24	62	18	17	35	2,203
修士（理学）	221	24	245	9	3	12	12,640
修士（医科学）	12	14	26	8	9	17	489
修士（人間健康科学）	29	51	80	0	0	0	901
修士（薬科学）	35	23	58	3	2	5	801
修士（工学）	602	102	704	38	24	62	36,755
修士（農学）	172	125	297	6	14	20	12,193
修士（人間・環境学）※1	80	63	143	18	24	42	4,220
修士（エネルギー科学）	120	11	131	8	2	10	3,335

大学の動き

学位名	2024年3月25日付授与者数			左記のうち留学生数			累計
	男	女	計	男	女	計	
修士（地域研究）※2	3	14	17	0	0	0	513
修士（情報学）	161	11	172	17	2	19	4,574
修士（生命科学）	26	35	61	2	4	6	1,817
修士（総合学術）※2	4	5	9	0	0	0	80
修士（地球環境学）	13	22	35	4	14	18	829
修士（文学）国際連携	2	2	4	2	0	2	34
修士（グローバル経済・地域想像）国際連携	0	0	0	0	0	0	5
修士（社会健康医学）	–	–	–	–	–	–	66
修士（薬学）	–	–	–	–	–	–	2,299
総計	1,605	589	2,194	145	134	279	92,733

※留学生数は在留資格「留学」のみの数
※１：修士（人間・環境学）は、累計に一貫制博士課程の修士修了相当授与者９名含む
※２：修士（地域研究）および修士（総合学術）は、一貫制博士課程の修士修了相当授与者のみ

修士（専門職）

学位名	2024年3月25日付授与者数			左記のうち留学生数			累計
	男	女	計	男	女	計	
社会健康医学修士(専門職)	17	19	36	0	3	3	633
公共政策修士（専門職）	28	4	32	3	0	3	675
経営学修士（専門職）	48	43	91	14	29	43	1,380
総計	93	66	159	17	32	49	2,688

※留学生数は在留資格「留学」のみの数

法務博士（専門職）

学位名	2024年3月15日付授与者数			左記のうち留学生数			累計
	男	女	計	男	女	計	
法務博士（専門職）	100	48	148	0	0	0	2,914
総計	100	48	148	0	0	0	2,914

博士 令和5年11月24日付、令和6年1月23日付、3月25日付

■課程博士

学位名	学位授与者数（下段は留学生の内数※）									総計	累計
	2023年11月			2024年1月			2024年3月				
	男	女	中計	男	女	中計	男	女	中計		
博士（文学）	3	1	4	0	1	1	13	8	21	26	1,554
	0	0	0	0	0	0	3	2	5	5	
博士（教育学）	0	0	0	0	1	1	4	1	5	6	302
	0	0	0	0	1	1	0	1	1	2	

大学の動き

学位名	学位授与者数（下段は留学生の内数※）									総計	累計
	2023年11月			2024年1月			2024年3月				
	男	女	中計	男	女	中計	男	女	中計		
博士（法学）	0	0	0	0	0	0	13	3	16	16	566
	0	0	0	0	0	0	4	3	7	7	
博士（経済学）	1	0	1	0	0	0	10	6	16	17	851
	0	0	0	0	0	0	0	5	5	5	
博士（理学）	3	0	3	2	0	2	62	8	70	75	7,207
	1	0	1	0	0	0	7	1	8	9	
博士（医学）	4	2	6	10	6	16	36	9	45	67	16,569
	0	1	1	1	2	3	3	2	5	9	
博士（医科学）	0	1	1	2	0	2	5	2	7	10	162
	0	1	1	1	0	1	1	1	2	4	
博士（社会健康医学）	0	0	0	0	0	0	0	4	4	4	137
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（人間健康科学）	0	0	0	0	1	1	3	1	4	5	121
	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	
博士（薬学）	0	0	0	0	0	0	2	3	5	5	1,486
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（薬科学）	0	0	0	0	0	0	13	2	15	15	192
	0	0	0	0	0	0	2	2	4	4	
博士（工学）	1	0	1	6	2	8	64	13	77	86	8,031
	0	0	0	3	1	4	21	10	31	35	
博士（農学）	0	0	0	0	1	1	36	9	45	46	3,905
	0	0	0	0	1	1	5	3	8	9	
博士（人間・環境学）	0	1	1	2	1	3	26	9	35	39	1,133
	0	0	0	1	1	2	9	4	13	15	
博士（エネルギー科学）	2	0	2	0	0	0	10	1	11	13	482
	2	0	2	0	0	0	4	1	5	7	
博士（地域研究）	2	2	4	0	0	0	7	7	14	18	335
	0	0	0	0	0	0	3	1	4	4	
博士（情報学）	1	0	1	1	1	2	24	4	28	31	883
	0	0	0	1	0	1	5	1	6	7	
博士（総合学術）※1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（生命科学）	2	3	5	1	1	2	7	4	11	18	527
	1	3	4	1	0	1	2	0	2	7	

大学の動き

学位名	学位授与者数（下段は留学生の内数※） 2023年11月 男	女	中計	2024年1月 男	女	中計	2024年3月 男	女	中計	総計	累計
博士（総合学術）※2	0	0	0	0	0	0	4	2	6	6	38
	0	0	0	0	0	0	2	0	2	2	
博士（地球環境学）	0	1	1	0	1	1	6	6	12	14	260
	0	1	1	0	1	1	4	5	9	11	
博士（経営科学）	0	0	0	0	0	0	3	1	4	4	33
	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	
博士（ゲノム医学）国際連携	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	3
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
総計	19	11	30	24	16	40	349	103	452	522	※3 44,779
	4	6	10	8	7	15	76	43	119	144	

※留学生数は在留資格「留学」のみの数
※1：情報学研究科　※2：総合生存学館　※3：旧制 9,651 名含む

■論文博士

学位名	学位授与者数（下段は留学生の内数※） 2023年11月 男	女	中計	2024年1月 男	女	中計	2024年3月 男	女	中計	総計	累計
博士（文学）	0	0	0	0	0	0	3	2	5	5	674
博士（教育学）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	180
博士（法学）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	204
博士（経済学）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	409
博士（理学）	0	1	1	0	0	0	2	1	3	4	1,582
博士（医学）	2	1	3	3	2	5	9	4	13	21	2,320
	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	
博士（医科学）	0	0	0	1	0	1	1	0	1	2	12
博士（社会健康医学）	0	0	0	0	0	0	1	1	2	2	19
博士（人間健康科学）	0	0	0	1	0	1	1	1	2	3	15
博士（薬学）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	774
博士（薬科学）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
博士（工学）	1	0	1	0	0	0	1	2	3	4	4,215
	0	0	0	0	0	0	1	1	2	2	
博士（農学）	0	0	0	0	0	0	3	3	6	6	2,920
	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	
博士（人間・環境学）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	56
博士（エネルギー科学）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	64
博士（地域研究）	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	33

大学の動き

学位名	学位授与者数（下段は留学生の内数※）									総計	累計
	2023年11月			2024年1月			2024年3月				
	男	女	中計	男	女	中計	男	女	中計		
博士（情報学）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	97
博士（生命科学）	1	0	1	0	0	0	1	0	1	2	30
博士（地球環境学）	0	0	0	0	0	0	1	2	3	3	19
	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	
総計	4	2	6	5	2	7	24	16	40	53	13,629
	0	0	0	0	0	0	1	4	5	5	

※留学生数は在留資格「留学」のみの数

■博士課程教育リーディングプログラム（博士課程の内数）

プログラム名	学位授与者数（下段は留学生の内数※）									総計	累計
	2023年11月			2024年1月			2024年3月				
	男	女	中計	男	女	中計	男	女	中計		
京都大学大学院思修館	0	0	0	0	0	0	4	2	6	6	41
	0	0	0	0	0	0	2	0	2	2	
グローバル生存学大学院連携プログラム	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	51
充実した健康長寿社会を築く総合医療開発リーダー育成プログラム	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	30
デザイン学大学院連携プログラム	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	32
霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院	0	0	0	0	0	0	1	1	2	2	30
総計	0	0	0	0	0	0	6	3	9	9	184
	0	0	0	0	0	0	2	0	2	2	

※留学生数は在留資格「留学」のみの数

■卓越大学院プログラム（博士課程の内数）

プログラム名	学位授与者数（下段は留学生の内数※）									総計	累計
	2023年11月			2024年1月			2024年3月				
	男	女	中計	男	女	中計	男	女	中計		
先端光・電子デバイス創成学	0	0	0	0	0	0	7	2	9	9	34
	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	
メディカルイノベーション	0	0	0	1	0	1	5	0	5	6	10
	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	
プラットフォーム学	0	0	0	0	0	0	3	1	4	4	4
総計	0	0	0	1	0	1	16	3	19	20	48
	0	0	0	0	0	0	1	1	2	2	

※留学生数は在留資格「留学」のみの数

（教育推進・学生支援部（教務企画課））

目次に戻る

大学の動き

令和5年度卒業式を挙行

3月26日（火）に、京都市勧業館みやこめっせにおいて、井村裕夫 元総長、山極壽一 前総長、教育･学生･入試担当理事、関係部局長の出席のもとに、令和5年度卒業式を挙行しました。湊 長博 総長から、代表者に対し学位記が手渡された後、総長の式辞をもって終了しました。

学位記授与の様子

式典に臨む卒業生

学位授与者数は次のとおりです。

学士

学位名	2024年3月10日、26日付卒業者数			左記のうち留学生数			旧制卒業者数	累計
	男	女	計	男	女	計		
学士（総合人間学）	76	38	114	1	1	2	－	3,568
学士（文学）	140	91	231	1	0	1	4,711	18,677
学士（教育学）	29	39	68	0	0	0	－	4,095
学士（法学）	207	97	304	0	2	2	14,531	40,032
学士（経済学）	207	42	249	2	1	3	8,067	24,951
学士（理学）	266	32	298	6	0	6	2,984	20,994
学士（医学）※1	84	24	108	0	0	0	5,673	13,394
学士（人間健康科学）※1	37	68	105	0	0	0	－	2,231
学士（薬学）※1※2	6	13	19	0	0	0	－	4,105
学士（薬科学）	42	23	65	0	0	0	－	821
学士（工学）	843	93	936	21	12	33	8,606	69,181
学士（農学）	200	90	290	3	0	3	3,392	22,101
小計	2,137	650	2,787	34	16	50	47,964	224,150
附属医学専門部	－	－	－	－	－	－	804	804
理工科大学	－	－	－	－	－	－	944	944
総計	2,137	650	2,787	34	16	50	49,712	225,898

※1：医学部（医学）は平成22年度より3月10日付卒業
　　薬学部（薬学）は平成26年度より3月10日付卒業
　　医学部（人間健康科学）は平成29年度より3月10日付卒業
※2：薬学部（薬学）は4年制の薬学部（薬学）を含む（平成18年度より6年制に改組）

（教育推進・学生支援部（教務企画課））

目次に戻る

大学の動き

令和６年度学部入学式を挙行

４月５日（金）に、京都市勧業館みやこめっせにおいて、山極壽一 前総長、青山 愛 国際連合教育科学文化機関（UNESCO）人道・難民プロジェクト担当官、教育・学生・入試担当理事、関係部局長の出席のもとに、令和６年度学部入学式を挙行しました。式典では、湊 長博 総長による式辞、青山氏による来賓祝辞がありました。

祝辞を述べる青山氏

式辞を述べる湊総長

今年度の入学者数は次のとおりです。

令和６年度 学部入学者数

令和６年４月１日現在

区分	一般選抜		外国学校出身者選抜		外国人留学生特別選抜		学士入学		再入学		特色入試		編入学		総計	
	男	計	男	計	男	計	男	計	男	計	男	計	男	計	男	計
	女		女		女		女		女		女		女		女	
総合人間学部	86	119	0	0	1	1	0	0	0	0	3	4	0	0	90	124
	33		0		0		0		0		1		0		34	
文学部	125	211	0	0	1	3	0	0	0	0	2	10	0	0	128	224
	86		0		2		0		0		8		0		96	
教育学部	23	57	0	0	0	2	0	0	0	0	1	2	3	8	27	69
	34		0		2		0		0		1		5		42	
法学部	229	310	0	2	1	2	0	0	0	0	15	20	3	5	248	339
	81		2		1		0		0		5		2		91	
経済学部	188	222	2	4	0	2	0	0	0	0	13	18	2	4	205	250
	34		2		2		0		0		5		2		45	
理学部	264	295	0	0	3	6	0	0	0	0	9	10	0	0	276	311
	31		0		3		0		0		1		0		35	
医学部（医学科）	87	110	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	88	112
	23		0		0		0		0		1		0		24	
医学部（人間健康科学科）	47	84	0	0	0	0	0	0	0	0	4	25	0	3	51	112
	37		0		0		0		0		21		3		61	
薬学部	55	76	0	0	0	1	0	0	0	0	3	6	0	0	58	83
	21		0		1		0		0		3		0		25	

大学の動き

区　分	一般選抜		外国学校出身者選抜		外国人留学生特別選抜		学士入学		再入学		特色入試		編入学		総　計	
	男	計	男	計	男	計	男	計	男	計	男	計	男	計	男	計
	女		女		女		女		女		女		女		女	
工学部	834	927	0	0	13	23	0	0	0	0	16	27	3	3	866	980
	93		0		10		0		0		11		0		114	
農学部	190	285	0	0	0	3	0	0	0	1	4	15	0	0	194	304
	95		0		3		0		1		11		0		110	
総　計	2,128	2,696	2	6	19	43	0	0	0	1	71	139	11	23	2,231	2,908
	568		4		24		0		1		68		12		677	

（教育推進・学生支援部（教務企画課））

目次に戻る

令和６年度大学院入学式を挙行

４月５日（金）に、京都市勧業館みやこめっせにおいて、教育・学生・入試担当理事、関係部局長の出席のもとに、令和６年度大学院入学式を挙行しました。式典では、湊 長博 総長による式辞がありました。

式辞を述べる湊総長

式典に臨む入学生

今年度の入学者数は次のとおりです。

令和6年度 修士課程入学者数

令和6年4月1日現在

区　分	入　学			転入学			合　計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
文学研究科	58　(5)	39　(7)	97（12）	1	4	5	59　(5)	43　(7)	102（12）
教育学研究科	15　(2)	25　(4)	40　(6)	0	0	0	15　(2)	25　(4)	40　(6)
法学研究科	13（11）	3　(3)	16（14）	0	0	0	13（11）	3　(3)	16（14）
経済学研究科	45（10）	15　(9)	60（19）	0	0	0	45（10）	15　(9)	60（19）
理学研究科	262　(8)	39　(1)	301　(9)	0	0	0	262　(8)	39　(1)	301　(9)
医学研究科（医科学専攻等）	12　(3)	16　(9)	28（12）	0	0	0	12　(3)	16　(9)	28（12）
医学研究科（人間健康科学系専攻）	28　(1)	48　(2)	76　(3)	0	0	0	28　(1)	48　(2)	76　(3)

大学の動き

区分	入学			転入学			合計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
薬学研究科	34 (0)	22 (1)	56 (1)	0	0	0	34 (0)	22 (1)	56 (1)
工学研究科	600 (34)	88 (18)	688 (52)	0	0	0	600 (34)	88 (18)	688 (52)
農学研究科	186 (13)	105 (10)	291 (23)	0	0	0	186 (13)	105 (10)	291 (23)
人間・環境学研究科	82 (22)	59 (19)	141 (41)	0	0	0	82 (22)	59 (19)	141 (41)
エネルギー科学研究科	122 (5)	9 (2)	131 (7)	0	0	0	122 (5)	9 (2)	131 (7)
情報学研究科	203 (35)	16 (4)	219 (39)	0	0	0	203 (35)	16 (4)	219 (39)
生命科学研究科	32 (6)	22 (0)	54 (6)	0	0	0	32 (6)	22 (0)	54 (6)
地球環境学舎	22 (5)	17 (3)	39 (8)	0	0	0	22 (5)	17 (3)	39 (8)
総計	1,714 (160)	523 (92)	2,237 (252)	1	4	5	1,715 (160)	527 (92)	2,242 (252)

※（　）内は、外国人留学生（留学ビザ留学生）で、内数

令和６年度 専門職学位課程入学者数

令和６年４月１日現在

区分	合計					
	男		女		計	
法学研究科（法科大学院）	103	(1)	48	(0)	151	(1)
医学研究科	15	(1)	20	(1)	35	(2)
公共政策教育部	28	(4)	10	(2)	38	(6)
経営管理教育部	50	(18)	42	(20)	92	(38)
総計	196	(24)	120	(23)	316	(47)

※（　）内は、外国人留学生（留学ビザ留学生）で、内数

令和６年度 博士（後期）課程入学者数

令和６年４月１日現在

区分	進学		入学		編入学		再入学・転入学		総計	
	男	計	男	計	男	計	男	計	男	計
	女		女		女		女		女	
文学研究科博士後期課程	31(5)	48(8)	0	0	5(2)	9(4)	0	0	36(7)	57(12)
	17(3)		0		4(2)		0		21(5)	
教育学研究科博士後期課程	11(1)	19(3)	0	0	1(0)	4(0)	0	0	12(1)	23(3)
	8(2)		0		3(0)		0		11(2)	
法学研究科博士後期課程	7(3)	12(4)	0	0	9(4)	11(5)	0	0	16(7)	23(9)
	5(1)		0		2(1)		0		7(2)	
経済学研究科博士後期課程	9(3)	14(7)	0	0	4(1)	4(1)	0	0	13(4)	18(8)
	5(4)		0		0		0		5(4)	

大学の動き

区分	進学 男	進学 女	進学 計	入学 男	入学 女	入学 計	編入学 男	編入学 女	編入学 計	再入学・転入学 男	再入学・転入学 女	再入学・転入学 計	総計 男	総計 女	総計 計
理学研究科 博士後期課程	89(5)	9(3)	98(8)	0	0	0	21(3)	7(0)	28(3)	0	0	0	110(8)	16(3)	126(11)
医学研究科 博士後期課程	12(4)	16(5)	28(9)	0	0	0	3(1)	2(1)	5(2)	0	0	0	15(5)	18(6)	33(11)
医学研究科 博士課程(四年)※1	2(0)	1(1)	3(1)	122(9)	40(12)	162(21)	0	0	0	0	0	0	124(9)	41(13)	165(22)
医学研究科(人間健康科学系専攻) 博士後期課程	3(0)	9(0)	12(0)	0	0	0	2(1)	7(1)	9(2)	0	0	0	5(1)	16(1)	21(2)
薬学研究科 博士後期課程	11(2)	4(1)	15(3)	0	0	0	5(0)	0	5(0)	0	0	0	16(2)	4(1)	20(3)
薬学研究科 博士課程(四年)	0	0	0	5(0)	5(0)	10(0)	0	0	0	0	0	0	5(0)	5(0)	10(0)
薬学研究科 博士課程(一貫)	0	0	0	7(0)	1(0)	8(0)	0	0	0	0	0	0	7(0)	1(0)	8(0)
工学研究科 博士後期課程	68(15)	15(9)	83(24)	0	0	0	44(8)	15(6)	59(14)	1(0)	0	1(0)	113(23)	30(15)	143(38)
農学研究科 博士後期課程	28(2)	16(2)	44(4)	0	0	0	14(6)	8(1)	22(7)	0	0	0	42(8)	24(3)	66(11)
人間・環境学研究科 博士後期課程	22(7)	22(6)	44(13)	0	0	0	17(5)	13(4)	30(9)	0	0	0	39(12)	35(10)	74(22)
エネルギー科学研究科 博士後期課程	7(2)	3(2)	10(4)	0	0	0	6(2)	3(2)	9(4)	0	0	0	13(4)	6(4)	19(8)
アジア・アフリカ地域研究研究科 博士課程(一貫)	0	0	0	16(3)	7(1)	23(4)	1(1)	1(0)	2(1)	1(0)	0	1(0)	18(4)	8(1)	26(5)
情報学研究科 博士後期課程	30(7)	2(1)	32(8)	0	0	0	23(4)	4(2)	27(6)	0	0	0	53(11)	6(3)	59(14)
生命科学研究科 博士後期課程	10(1)	13(1)	23(2)	0	0	0	4(1)	4(1)	8(2)	0	0	0	14(2)	17(2)	31(4)
地球環境学舎 博士後期課程	0	2(0)	2(0)	0	0	0	2(0)	2(2)	4(2)	0	0	0	2(0)	4(2)	6(2)
経営管理教育部 博士後期課程	2(0)	0	2(0)	0	0	0	4(0)	2(0)	6(0)	0	0	0	6(0)	2(0)	8(0)

大学の動き

区　分	進　学		入　学		編入学		再入学・転入学		総　計	
	男	計	男	計	男	計	男	計	男	計
	女		女		女		女		女	
総合生存学館博士課程（一貫）	0	0	5(1)	12(3)	0	0	0	0	5(1)	12(3)
	0		7(2)		0		0		7(2)	
総　計	342(57)	489(98)	155(13)	215(28)	165(39)	242(62)	2(0)	2(0)	664(109)	948(188)
	147(41)		60(15)		77(23)		0		284(79)	

※１：進学２名は、本学他研究科修士課程または専門職課程修了後、当該課程に進学した者
※（　）内は、外国人留学生（留学ビザ留学生）で、内数

（教育推進・学生支援部（教務企画課））

目次に戻る

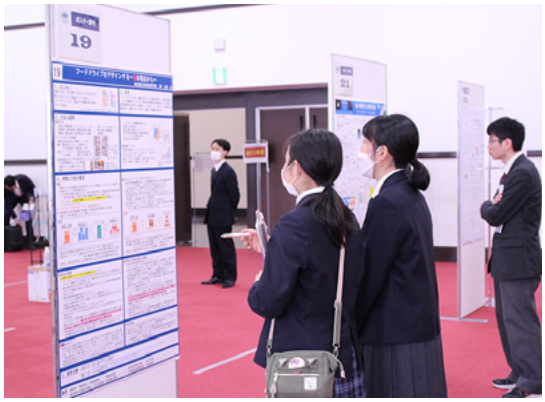
「京都大学ポスターセッション2023」を実施

本学高大接続・入試センター主催による「京都大学ポスターセッション2023」を、3月16日（土）に百周年時計台記念館国際交流ホールにて実施しました。本企画は、ポスター発表を通じて高校生が日頃の課題探究活動の成果を披露するもので、2017年度から開始し今回で7回目の開催となりました。

今年は、全国の国公私立高校31校から128名が参集し、文系理系合わせて31テーマのポスターが出展されました。緊張した面持ちの中、他校の生徒の前で研究成果をプレゼンテーションしている姿はいつも以上に生き生きしているように見え、質疑応答ではおのおのの意見を述べ合う場面もありました。

プレゼンテーション終了後、参加者全員による投票や複数の高校教員からの審査意見も踏まえ、以下３校を優秀ポスター賞に決定し、賞状と記念のトロフィーを贈呈しました。村上 章 高大接続・入試センター長は、「ほとんど点差のない立派な研究発表ばかりでした。これからは探究活動だけでなく、もっと幅広い視野でさまざまな体験を積んでいってほしい」と語り、参加生徒のさらなる活躍を願うとともに、的確な指導を続けている高校関係者にも、ねぎらいの言葉と賛辞を送りました。

ポスターセッション当日の様子


各校の研究内容に注目する高校生たち

大学の動き

＜優秀ポスター賞 受賞校＞

●兵庫県立姫路東高等学校

・研究テーマ

「山陽帯花崗岩類の角閃石から発見した波状累帯構造からマグマ分化末期の熱水残液の循環を推定する」

・講評

まず、自分たちでマップを制作していることの驚きとともに本研究の凄みを感じました。地質学の先行研究に基づいてデータも蓄積しており、新しいことへの挑戦と完成度も評価できます。また、生徒の皆さんの発表姿勢も大いに評価できるものです。

優秀ポスター賞を受賞した兵庫県立姫路東高等学校生徒

・受賞校からのコメント

これまで岩石や地層というと「暗い」と敬遠されてきました。地学の授業が開講されている学校が少なく、教科書の内容でさえ「難しい」と言われ続けてきました。ですから今回優秀賞に選ばれたことは驚きで、ようやく陽の目を見た気分です。今回の研究は、「地質調査（山歩き）、続いて岩石試料の採取と偏光顕微鏡での観察、最後に高大連携を活用したEPMA分析」というもので、高度な化学の内容が必要で苦労しましたが、分かったと言ってもらえてうれしかったです。

●お茶の水女子大学附属高等学校

・研究テーマ

「モデル実験による床上浸水時の避難の妨げにならない家具配置の検討」

・講評

実験モデルの提案であり、研究成果として将来的に結実する可能性が高いものと思われます。扱いづらい内容も工夫次第でこのような意味のある研究となる、まさにお手本のような発表でした。今後の条件設定次第では、重要なデータの発見や研究に対する視座が高まっていく可能性も秘めています。

優秀ポスター賞を受賞したお茶の水女子大学附属高等学校生徒

・受賞校からのコメント

発表を通じていただいた助言や質問により、研究に対する理解を一層深められたように感じます。受賞とともにこのような貴重な経験をさせていただいたことを大変嬉しく思います。モデル実験に際しては考慮した要素とそうでない要素の区別を明確にする必要があると痛感しました。実用化に向けた可能性を評価していただいたため、今後も要素の区別に留意しつつ実用的な知見につなげたいと考えております。最後に、お世話になった先生方に感謝申し上げます。ありがとうございました。

大学の動き

●東京都立戸山高等学校

・研究テーマ

「星の瞬きと高層気象～星と気象を結びつける～」

・講評

多くのアプローチ分析を行っており、自分たちの考えもあらかじめ練られています。その一方で、現状のやや過密すぎるデータをコンパクトにまとめていくことによって、より核心に近づいていくことが期待され、そのことによって研究評価がさらに高まっていくようにも思われます。

優秀ポスター賞を受賞した東京都立戸山高等学校生徒

・受賞校からのコメント

このたびは、本研究に講評・評価をいただき感謝しています。本研究は、星の瞬きがなぜ生じるのかという疑問から出発し、それをどのように数量化することから研究が始まり、高層気象との関係にまで発展しました。地道な観測による研究が評価されたことをうれしく感じています。また、研究に当たって指導助言をいただいた、防災科学技術研究所の鈴木真一先生（前職）、出世ゆかり先生に感謝いたします。

（教育推進・学生支援部（入試企画課））

目次に戻る

部局の動き

第7回マヒドン大学On-site Laboratoryワークショップを対面とオンラインのハイブリッドで開催

地球環境学堂は、第7回マヒドン大学On-site Laboratoryワークショップを、2月23日(金)、現地とオンラインのハイブリッドにて開催しました。

本学は、指定国立大学法人構想の柱の1つとして掲げた「柔軟かつダイナミックな体制による知の創造」を実現する取り組みとして、海外の大学や研究機関と共同で現地運営型研究室（On-site Laboratory）を設置しています。地球環境学堂は、2018年からマヒドン大学と共にOn-site Laboratoryプログラムに参入し、京都大学On-site Laboratory「Mahidol環境学教育・研究拠点」の活動を展開してきました。

地球環境学堂が主催する本ワークショップは、新型コロナウイルス感染症の影響によりオンラインでの開催が続いていましたが、第7回目となる今回は4年ぶりに対面を含む開催となりました。本学とマヒドン大学を中心に研究者や学生123名（対面63名、オンライン60名）が参加しました。

ワークショップの開催に先立ち、マヒドン大学On-site Laboratoryの銘板が披露されました。続いて、河野泰之 副学長による開会の辞（録画再生）とThanapat Wanichanon マヒドン大学工学部長の歓迎の挨拶がありました。その後、越後信哉 地球環境学堂教授より、マヒドン大学工学部と地球環境学堂の間で行われているダブル・ディグリープログラムと本On-site Laboratoryとの連携について説明があり、今後の教育と研究での協働について議論を行いました。記念撮影の後は、4つの分科会（(1) 環境工学、(2) 農業･生態系、(3) 公衆衛生、(4) 化学工学）に分かれ、本学およびマヒドン大学双方の研究者から近年の研究成果や教育・研究活動の展開について情報交換が行われました。

Plenary Sessionでは、それぞれの分科会の内容について各分野のコーディネーターなどから報告があり、分野を超えての情報共有や意見交換が行われました。総括討論では、越後教授とSuwanna Boontanon マヒドン大学・京都大学クロスアポイントメント准教授が座長を務め、今後の研究・教育活動、特にダブル・ディグリープログラムの深化について、実際にダブル・ディグリープログラムを経験した学生の体験談も含め、活発な議論が交わされました。

最後に、Pattaraporn Posoknistakul マヒドン大学工学部国際交流担当副学部長と宇佐美 誠 地球環境学堂副学堂長による閉会の辞をもって、ワークショップは閉幕しました。

本学とマヒドン大学の共同研究および教育活動に関する活発な情報交換がなされたことはもちろん、研究・教育における協働についてさまざまな可能性が議論され、実りあるワークショッ

On-site laboratory の銘板の前での記念撮影

Wanichanon マヒドン大学工学部長の歓迎の挨拶

部局の動き

パラレルセッションの様子（その１　農学・生態系セッション）

パラレルセッションの様子（その２　環境工学セッション）

現地参観者記念撮影

プとなりました。ハイブリッド開催の利便性と対面でのディスカションの重要性を再認識する機会となりました。

（大学院地球環境学堂）

目次に戻る

バンコクで Kyoto University alumni reunion 開催

2月23日（日）にマヒドン大学Salayaキャンパスで開催された「第7回京都大学−マヒドン大学オンサイトラボラトリーワークショップ」に合わせ、タイの首都バンコク・Phaya Thaiにおいて Kyoto University alumni reunionを開催しました。ワークショップのために日本から参加した本学教員8名に加え、修士課程・博士課程の卒業生や短期研修生、さらに現役および次年度入学予定の学生など、合計58名が参加しました。

まずはじめに、Luksanaree Maneecot氏（工・修士/博士課程、2020年9月修了）、Huynh Tan Loi氏（工・修士/博士課程、2020年9月修了）の司会進行のもと、集合写真の撮影を行い、続いてASEAN拠点（バンコクにある京都大学のセンター）の縄田栄治 拠点長の開会挨拶、Chettiyappan Visvanathan（2018年12月−2019年3月、工・流域研総合環境質研究センター招聘教授）マヒドン大学教授のスピーチと乾杯で、祝宴が始まりました。

その後、1人30秒の自己紹介をグループごとに実施するとともに、個別に会話し、昔を懐かしんだり、新たな交友関係を築いたりして、懇親を深めました。2024年度に来日・入学予定

部局の動き

の4名の学生にとっては、入学前に教員や在学生、卒業生と対面で交流できる場ともなりました。途中で行われた出身研究室等、種々のグループ写真撮影では、本学教員と留学生の絆がより鮮明に記録されました。午後9時前に、本同窓会実施責任者のSuwanna Kitpati Boontanon 京大・マヒドン大クロスアポイント准教授（工・博士、2005年9月修了）およびその指導教員であった藤井滋穂 名誉教授から公式的な閉会の挨拶がなされましたが、その後もおよそ20名が会場に残り懇談が続き、午後11時まで同窓会は盛り上がりました。

同窓会参加者の集合写真

1人30秒の自己紹介をする様子

藤井名誉教授（後列左から3人目）と指導学生

越後信哉 地球環境学堂教授（左から3人目）と指導学生

農学系教員（右から、西前 出 地球環境学堂教授、樋口浩和 農学研究科教授、上髙原 浩 農学研究科教授、縄田 ASEAN 拠点長）と指導学生

閉会挨拶の様子（左から、Suwanna 准教授、藤井名誉教授、Huynh Tan 氏、Luksanaree 氏、Visvanathan 教授）

（大学院地球環境学堂）

目次に戻る

部局の動き

医学部附属病院で令和５年病院長賞表彰式を挙行

医学部附属病院は、3月18日（月）、19日（火）、27日（水）に令和５年病院長賞表彰式を挙行しました。

同賞は、本院における教育、研究、診療、管理運営などについて、極めて顕著な貢献があったと認められる若手教職員または診療科などを表彰する制度として設けられたもので、個人および団体の推薦の中から３組の受賞者を表彰しました。今年度は、能登半島地震への災害医療派遣チームおよびメンバーを特別賞として表彰しました。

表彰式では、髙折晃史 医学部附属病院長より、受賞者および受賞内容についての発表があり、表彰状が授与され、祝辞が述べられました。

令和５年病院長賞受賞内容

①積貞棟４階および積貞棟５階

質の高い医療の提供を目指した取り組みを行った。また、患者サービスの向上に資する取組を行った。

②先端医療研究開発機構 臨床研究支援部 臨床研究コーディネーターユニット

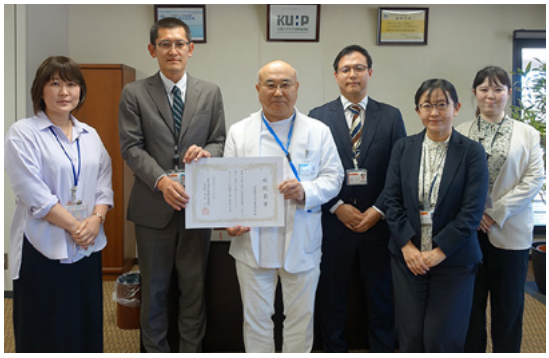
臨床研究の協力者である患者のサポート、臨床研究担当医師の支援を通して、臨床研究が安全そして適切に行えるようにコーディネートを行い、診療科の協力を得て、年間通して過去最多である51件の新規治験を開始するに至った。また、治験事務局・治験審査委員会事務局、さらには治験薬管理業務を担うことで、スムーズな治験の審査や実施にも貢献した。

③医務課外来診療報酬掛

逆紹介割合向上に向けた取組を行い、初再診療、処方箋料の減算回避を達成し、病院の経営に著しい功績が認められた。

受賞した看護部積貞棟４階および積貞棟５階

受賞した先端医療研究開発機構 臨床研究支援部 臨床研究コーディネーターユニット

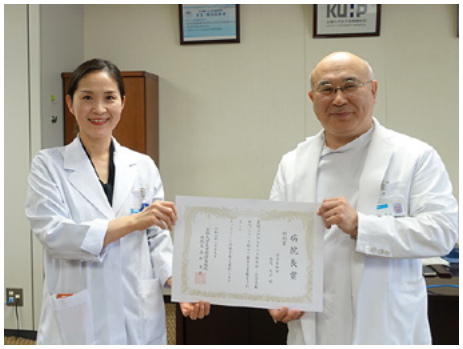

受賞した医務課外来診療報酬掛

特別賞を受賞した災害医療派遣チームおよびメンバー（DMAT）

部局の動き

④災害医療派遣チームおよびメンバー

令和６年元日に発生した能登半島地震において、本院から災害医療派遣チームおよびメンバーが派遣され、当該地域の医療機関および避難所で災害支援活動を行った。



特別賞を受賞した災害医療派遣チームおよびメンバー（災害時感染症支援チーム（DICT））

特別賞を受賞した災害医療派遣チームおよびメンバー（日本医師会災害医療チーム（JMAT））

特別賞を受賞した災害医療派遣チームおよびメンバー（災害支援ナース）

特別賞を受賞した災害医療派遣チームおよびメンバー（日本栄養士会災害支援チーム（JDA-DAT））

（医学部附属病院）

目次に戻る

第19回京都大学附置研究所・センターシンポジウム／京都大学松本講演会を開催

研究連携基盤では、各研究所・センターの活動や生み出されている研究成果について、広く一般社会に対してわかりやすく説明し、研究・教育活動、社会貢献活動への理解や支援・協力を得ることを目的として、年１回全国主要都市で一般市民の方を対象とした公開のシンポジウムを開催しています。第19回目となる今回は、３月２日（土）に、甲信地方では初めて、松本市まつもと市民芸術館の主ホールにおいて開催（後援：長野県教育委員会、松本市教育委員会、読売新聞社）し、オンラインも含めて約600名が参加しました。

湊 長博 総長による開会挨拶の後、午前は、矢野浩之 生存圏研究所教授、今井啓雄 ヒト行動進化研究センター教授、工藤 洋 生態学研究センター教授の講演、午後は、午前の講演への質問回答を挟み、伊藤悦子 基礎物理学研究所准教授、翟 亜蕾 東南アジア地域研究研究所准教授、松本智裕 生命科学研究科附属放射線生物研究センター教授の講演と質問回答が行われました。

続くパネルディスカッションでは、辻井敬亘 研究連携基盤長の司会のもと、講師６名に時任宣博 理事・副学長および山本 衛 生存圏研究所長が加わり、「研究の未来、京大の未来」

部局の動き

をテーマに、宇宙にも広がりうる研究展望などについて活発な意見交換が行われ、最後に時任理事・副学長の総括・閉会挨拶により幕を閉じました。

また、今回初めての企画として、お昼の休憩時に本学の所長・センター長などと中・高校生が昼食をとりながら質問や相談を行うコーナーを設けました。参加者からは、「京都大学の先生と交流して、京都大での研究や研究の楽しさを教えていただいた。進路の相談にものっていただき、将来について考えるきっかけになりました」、「研究者の方々を身近に感じられた。いろいろな研究の一つ一つが私たちの世界を良くしてくれているんだと思った」などの感想が寄せられました。

本シンポジウムは、特に次世代を担う中・高校生の方々の参加を歓迎しており、企画にあたっては、「平易性、おもしろさ、モチベーションの高揚」といった観点を重視し、講演内容は研究者自身の経験や、その研究をはじめるに至ったエピソード等を交えるなど、中・高校生にもわかりやすいものとなるよう努めており、その目的の一端が達成されました。

開会挨拶を行う湊総長

パネルディスカッションの様子

総括・閉会挨拶を行う時任理事・副学長

お昼休憩時の交流コーナーの様子

（研究連携基盤）

目次に戻る

寸　言

ダイバーシティ＆インクルージョン（まー、ええか）

山本　清博

昨今、いろいろなところでD&I（ダイバーシティ＆インクルージョン：多様性と受容性）という言葉を聞かれることが多いのではないでしょうか。今回は、京都大学時代の思い出から、後輩の皆さん、大学への意見として、一言お伝えしたいと思います。

一昔前は、日本におけるD&Iは、女性活躍推進と同義語として語られることが多かったように記憶しておりますが、現在ではLGBTQなど、かなり幅広い考え方として捉えられ、いろいろな考えをお持ちの方が暮らしやすい世の中に変わりつつあるように感じています。

わたしは、1983年から1989年までという、当時バブル真っ盛りの中を京都で6年過ごしました。当時はD&Iという概念はなかったように思いますが、いわゆる多様性、という観点では、同期の学生、サークルの皆さん、バイト先の皆さん、先輩、教授陣の皆さん、それぞれ、多様な人に囲まれていたように思います。今振り返ると、“自分の足で立っている”人が多く、結果的に、あまり集団で行動する、というよりも、適度な距離感での付き合いができたように思います。自分自身は、父親の仕事の関係で中学3年の春に東京から大阪に転校し、慣れない土地と慣れない言葉で、なんとか大学に入学し、右も左も、という状況でしたが、周囲の皆さんに恵まれ、今振り返るとあの時代に京都で過ごした日々があっての今、という気がしております。

一般的に、京都は外部からの転入者とは距離を置く、と言われていましたが、私たち学生にはとてもやさしい街であったと思います。いろいろ“やらかして”しまったこともありましたが、その都度“まー、ええか”と、周囲の方に収めていただいていた記憶があります。そのような点では、受容性が高い街であると思っており、今、京都で学び、生活している後輩の皆さんも、そのように感じられる状況であればよいな、と思っております。

社会に出ると、いろいろなことがありますが、ある程度お互いの主張を交わした後に、“まー、ええか”というくらいの“緩さ”が世の中をうまく廻していくためには重要であり、昨今の国際情勢改善にはその緩さが求められているように感じています。

後輩の皆さんも大学での勉学、生活の中で、自分軸をしっかり持ったうえで、周囲とのコミュニケーションの際には、時には“緩さ”を体感いただき、今後の社会人としての人生に活かしていただければと思います。また、京都大学は、そのような学生さんの緩さを許容したうえで、今後のよりよい国際情勢構築に向けて、様々な場面での情報発信、行動を継続いただけばと思います。

（やまもと きよひろ、アズビル株式会社 取締役 代表執行役社長、
平成元年大学院工学研究科修士課程修了）

目次に戻る

随想

京都大学・コーネル大学 国際連携コースへの願い

名誉教授　原　良憲

2002～2003年の頃に、当時の長尾 真 総長と情報学研究科の先生方が、訪米されました。当時、私は、米国・シリコンバレーの企業研究所で研究マネジメントに従事しておりました。ご来訪の際、京都大学でも経営管理（MBA）に相当する大学院構想があると伺い、それは素晴らしいことですねと申し上げました。その時は自分が関わるとは想像もしていなかったので、他人事のようにお返事をした記憶があります。

2005年になり、この最初の大学院構想は日の目をみなかったのですが、2回目の設置申請が受理されたと伺いました。その後、私にとって晴天の霹靂でしたが、2006年の経営管理大学院の新設時に、新任教員の一人として着任させていただくことになりました。私は、工学、情報学の専門でしたが、経済学研究科、経営管理大学院での教育研究や、経済学部での講義、ゼミ演習などを担当させていただきました。そこで、他の先生方・学生諸氏との交流の中から、自由闊達で、ずいぶん懐が深い大学だと感銘を受け、自ら学ぶところが多い日々でした。

私がシリコンバレーで勤務していたのは10年になりますが、その原点は、企業の海外留学制度の一環で、スタンフォード大学コンピュータサイエンス学科に客員研究員として、研究に従事したことにあります。同じ研究グループでは、Googleの共同創業者など、後に社会に大きな影響を与える研究者が在籍し、活力に満ちていました。教員採用の場にも立ち会いましたが、その評価は、研究業績そのものを踏まえつつも、如何に新しい領域を切り開いたかという要素がより高く評価され、これらの点に私は刺激を受けました。

着任後、京都の地の利を生かしたサービス領域のMBAを新たに組織化いたしました。その中でも挑戦的だったことは、コーネル大学との国際連携コースの設置です。２年間で２つの大学の学位を取得するダブルディグリープログラムです。通常は、本務校と受入校とが明記されていて、一方の大学から相手の大学に学生を相互派遣するという形態をとります。しかし、日本の国立大学法人と米国の著名大学では、授業料に約10倍の差異があります。米国側の大学に、たくさんの学生を受け入れてもらうことは到底困難でした。そこで、学期毎に勉学している大学のみに授業料を払う制度を導入していただきました。日米での学籍という概念の違いの調整、単位互換制度の適用、奨学金の確保、受験生の英語スキルアップ、入試広報の拡充など、3年の期間を要しました。文科省、経産省、㈱グリーンハウス様など多方面の関係者のご支援により、本コースを2019年度より実現することができました。１学期は京大で、２学期と３学期はコーネル大学で、そして、４学期は京大に戻って勉学を行うことで、両大学のディプロマポリシーに基づく正規の２つの修士号を授与することができます。現在までに30名の学生が活躍してくれています。

私の京都大学での最後の用務は、コーネル大学のDeanであるKate Walsh先生を京大にお迎えし、学位記交付式へご参加いただき、併設のセミナーを開催するものでした。COVID-19の影響で来日していただくことが実現できなかったのですが、やっと最後の機会に実現できてうれしく思っています。日本のともすれば内向き志向の状況に対して、少しでも意欲のある学生諸氏に海外留学の機会を提供し、今後も継続的に人材育成に貢献できることが私の願いです。

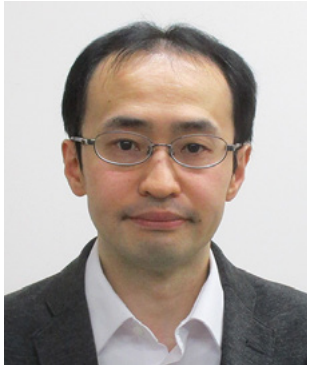
（はら　よしのり、令和６年退職、元経営管理大学院教授、
専門はイノベーション・マネジメント）

目次に戻る

洛　書

「表面的」な触媒の理解を目指して

小板谷　貴典



私は学生のころから今に至るまで固体の表面物性、とりわけ不均一触媒で起こる表面反応に関して研究を行っている。個人的な見解ではあるが、表面あるいはそれに類する言葉は、ネガティブな文脈で使われることが多いように感じている。実際に、表題に含まれる「表面的な触媒の理解」を素直に読むと「触媒に関する知識や理解が浅い」といったような意味にとれるであろう。物質表面を専門として研究している身としては、少々不本意な言葉の使われ方であると感じることがある。なぜならば、触媒反応が起こるのは他ならぬ触媒表面においてであり、したがって表面こそが機能発現に最も本質的な役割を果たしていると言えるからである。

最近は、動作中の触媒表面でどのようなことが起きているのかを明らかにするために、分光手法を用いて反応中の表面の観測を行っている。目指すところは触媒反応機構の解明であるが、実際に動作中の触媒表面を見てみるときわめて複雑な現象が表面で起こっていることが分かり、一筋縄ではいかないことを実感する。例えば単純な分子である二酸化炭素の水素化でも、初期反応だけでいくつか可能性があり（CO と O に解離してから水素が付加する、もしくは CO_2 のまま水素が付加するなど）、どのプロセスで反応が進行するかは反応条件や用いる触媒によって変わってくるのである。現状では残念ながら文字通りに「表面的な理解」にとどまっていることを痛感する日々ではあるが、逆に言えば、まだまだ学ぶべきことがたくさんあることを意味するので、その点は楽しみでもある。

「このような複雑な表面現象を果たして正しく理解することはできるのであろうか?」と不安に思うことが時折ある。まさに未だ五里霧中であるが、結局のところ、自分ができることを一つ一つ積み重ねてゆくしかないのであろう。いつの日か表面反応機構を理解できた、すなわちポジティブな意味で「表面的」に触媒を理解できたと思える日が来ることを夢見て、日々なすべきことを行ってゆきたい。

（こいたや　たかのり、大学院理学研究科准教授、専門は表面・界面化学）

目次に戻る

栄誉

今堀 博 国際高等教育院教授（大学院工学研究科併任）が紫綬褒章を受章

このたび、光化学研究における優れた業績により、今堀 博 国際高等教育院教授（大学院工学研究科併任）が、4月29日（月）に紫綬褒章を受章されました。

今堀教授は、永年にわたって、化学の教育および研究に努め、光化学分野における光電荷分離の学理構築と機能開拓に貢献しました。特に、植物のクロロフィルの仲間であるポルフィリンとサッカーボール型の炭素分子であるフラーレンに着目し、これらを組み合わせた分子系の光電荷分離やポルフィリンを用いた色素増感太陽電池の先駆的な研究に代表されるように、有機分子の特性を生かした合理的な分子設計と自発的な組織化を巧みに利用し、分子系の光電荷分離に関する研究で世界を先導する研究成果をあげてきました。

（国際高等教育院）

目次に戻る

清水 昌 名誉教授が日本学士院賞を受賞

このたび、清水 昌 名誉教授が第114回（令和6年）日本学士院賞を受賞することになりました。日本学士院賞は、学術上特に優れた研究業績に対して贈られるもので、日本の学術賞としては最も権威ある賞です。

清水名誉教授は、昭和43年に京都大学農学部を卒業、昭和45年に同大学大学院農学研究科修士課程、昭和49年に同研究科博士課程を修了し、同年に農学博士の学位を取得しました。その後、昭和50年に京都大学農学部助手、平成元年に同学部助教授、平成4年に同学部教授、平成9年に同大学大学院農学研究科教授を経て平成21年に定年退職され、京都大学名誉教授の称号を授与されました。

今回の日本学士院賞の研究題目は、「微生物の新規機能の探索と有用物質生産への応用に関する研究」です。清水名誉教授は多種多様な微生物群の中に有用な新規機能を広く探索する研究を通じて、アラキドン酸を主成分とする油脂を直接生産する微生物を世界で初めて発見し、その工業生産に成功されました。また、その生合成過程の詳細な検討から、稀少かつ多様な高度不飽和脂肪酸の発酵生産に成功し「油脂発酵」という産業分野を確立されました。現在、アラキドン酸含有油脂は世界の国々で乳幼児用の粉乳に添加されています。また、パントテン酸生産の工業原料中間体を光学分割する微生物反応を発見し、これまでの化学的手法による光学分割法を用いた製造工程を大幅に簡略化されました。さらにケトン基を光学活性アルコールへと不斉還元する微生物を発見し、その酵素を用いた汎用型の不斉還元システムを構築されました。本法は多様な光学活性アルコールの工業的合成法として世界的に活用されています。清水名誉教授は探索研究による微生物の新規な機能の発見をもとに学術的な研究を進め、

栄誉

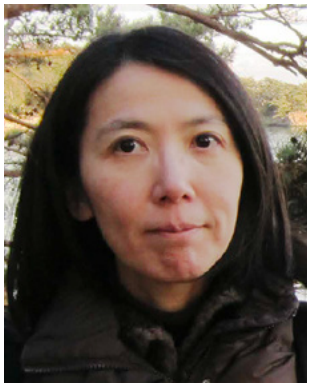
その成果を質の高い社会実装に結びつけて、バイオ産業の発展に大きく貢献されました。

なお、清水名誉教授の卓越した業績に対し、平成13年日本化学会化学技術賞および米国油化学会バイオテクノロジー賞、平成14年日本ビタミン学会賞、平成15年日本農芸化学会賞および有馬啓記念バイオインダストリー協会賞、平成20年文部科学大臣表彰科学技術賞および新技術振興渡辺記念会井上春成賞など、多数の賞が授与されています。また、令和4年度文化功労者に選ばれています。

（農学研究科）

目次に戻る

緒方芳子 数理解析研究所教授が「第44回猿橋賞」を受賞



この度、緒方芳子 数理解析研究所教授が「第44回猿橋賞」を受賞いたしました。

同賞は、一般社団法人「女性科学者に明るい未来をの会」（1980年創立）が、自然科学分野で顕著な研究業績を収めた女性科学者を毎年選出し、贈呈しています。

研究業績要旨は「量子多体系の数学的研究」であり、物理学の問題を数学で厳密に説明、予言する研究が高く評価され、この度の受賞となりました。

なお、贈呈式は5月11日（土）に日本工業倶楽部にて行われました。

【関連リンク】

「第44回猿橋賞」の受賞者が発表されました

https://saruhashisho.wordpress.com/2024/04/16/「第44回猿橋賞」の受賞者が発表されました

（数理解析研究所）

目次に戻る

本庶 佑 高等研究院特別教授に国立台湾大学の名誉医学博士号が授与される

左から、本庶特別教授と名誉博士号を授与する陳学長

この度、本庶 佑 高等研究院特別教授に国立台湾大学の名誉医学博士号が授与されました。本授与は、これまでの本庶特別教授の類まれな功績をたたえたもので、日本人では初めてとなります。

4月23日（火）、国立台湾大学から学長らが来訪され、授与式が行われました。その中で、陳 文章 国立台湾大学長は、「本庶特別教授は世界的に著名な免疫学者として、その卓越した指導的役割を果たし、が

栄誉

前列左から、北川 進 理事・副学長、本庶特別教授、陳学長、張 上淳 国立台湾大学副学長
後列左から、伊佐 正 医学研究科長、森 重文 高等研究院長、楊 泮池 元国立台湾大学長、倪 衍玄 国立台湾大学医学部長

ん治療への全く新しいアプローチを切り開いた功績は大きい」と述べました。本庶特別教授は、「台湾と日本は非常に近い関係にあり、多くのものを分かち合っている。両大学は、台湾と日本の未来のために、学術的な協力を深め、学生や研究者の交流を通じて良好な関係を次世代につなげていければ」と期待を寄せました。

（高等研究院）

目次に戻る

探訪

このコーナーでは，職員が本学の研究施設等に実際に足を運び，現場での取り組みや職員が感じたことをルポ形式で不定期にお伝えしていきます。

ベトナム国家大学ハノイ校スプリングスクール
～広報課員が行く～

毎年春休みに実施されている東アジア・ASEAN地域への短期留学プログラム。留学先は、ベトナムまたはインドネシア。事前に語学授業を受けたうえで、2週間現地の大学で学習し、条件を満たした修了者には、全学共通科目として2単位が付与される。

このたび、八木知己 学生担当理事補、張 子康 学際融合教育研究推進センター特定助教、国際・共通教育推進部国際教育交流課職員による、ベトナム国家大学ハノイ校スプリングスクールの視察に同行させてもらった。

■ ベトナム国家大学ハノイ校スプリングスクールについて

2013年から始まったプロジェクトで、ベトナム国内トップの名門大学であるベトナム国家大学ハノイ校において、ベトナム語学習およびベトナム文化についての講義、文化体験、ベトナム語母語話者との日本語も交えた交流と発表討論、実地研修などを行う。同校は複数の独立した大学が集まる総合大学であり、プログラムの1週目はそのうちの1つである同校人文社会科学大学（USSH）にて、2週目は同校外国語大学（ULIS）にて、現地の学生と一緒に授業を受ける。2022年度までに累計64名が参加し、2023年度は10名が参加した。学部・学年・課程を問わず参加が可能で、海外留学の第一歩として挑戦しやすいプログラムとなっている。

■ ベトナム国家大学ハノイ校人文社会科学大学（USSH）とは？

1945年設立。社会科学と人文科学における優れた学術・教育・研究水準がベトナム第1位と評価されている。現在17の学部・学科があり、その中の東洋学部は日本や中国などアジア諸国に重点を置いた地域研究と国研究を専門としており、当該諸国の歴史、文化、政治など総合的な知識の習得を目指している。

USSH の正門

USSH の校舎

■ ベトナム国家大学ハノイ校外国語大学（ULIS）とは？

1955年設立。同大の日本言語文化学部はベトナム国内でトップクラスの評価を得ている日本語教育機関。同学部は日本語言語学課程と日本語教師養成課程の2つの課程に分かれており、高い日本語能力を持つ人材を育成している。協定を締結している日本の大学は40校以上で、交換留学等が盛んである。

ULIS の校舎

ULIS の学内にある店舗

■ 授業の様子

我々が訪れたのはプログラムの２週目。その日は、ULISにてベトナム語の基本的な挨拶についての授業が行われていた。ベトナム語では、挨拶をする相手の立場によって主語が変わるとのこと。先生に挨拶する場合や友達に挨拶する場合の主語や構成をベトナム人学生と一緒に考えるなど、和気あいあいとした雰囲気で授業が行われていた。

ベトナム語の授業の様子

授業のサポートをしてくれているベトナム人学生と本学学生

■ 学生インタビュー

授業終了後、本学の学生７名、ベトナム人学生３名にインタビューを行った。

まず、本学の学生にプログラムへの参加理由を尋ねたところ、「ベトナムは高度成長期の日本とGDPが同程度で、当時の日本と同じような空気感がある。ベトナムでの生活を体験することで、日本がどのように成長してきたかや、両国に不足している部分を見ることができると思った」、「高校生のときに参加した海外留学プログラムが楽しく、大学でも同じ経験をしたかった」、「これまで海外へ行ったことがなく、どこかの国に行ってみたかった」など、人によってさまざまであった。

今回、日本語を勉強するために自らサポート学生に応募したというベトナム人学生に、本学の学生の印象について尋ねたところ、「本当に優秀な人たち。ベトナム人が発表するときは感想だけを話すが、京都大学の学生はデータを入れて話す。とても頭が良くて尊敬します」、「皆さんとっても優しい」と答えた。本学の学生は「なんでこんなに優しくしてくれるんだろうと思うぐらい、ベトナムの方は優しい」と話し、お互いに優しいと

インタビューの様子

いう印象を持っていたことが分かり、その場は笑顔があふれた。

そのほか、「もっと現地の学生さんたちと交流できる時間を増やしてほしい」など、プログラムに対する要望もあった。国際教育交流課職員は「交流はとても大事。現地の学生と友達になって、交流を続けてもらうことが、言葉の上達にもつながるだろうし、それが本当の国際交流だと思う。今回学生さんたちにいただいた貴重な意見を、今後のプログラムに活かしていきたい」と話した。

インタビューを終えて

■ ベトナムにおける日本語学習・日本留学の現状

ULIS日本言語学部のダオ・ティ・ガア・ミー 学部長によると、「入学理由で一番多いのは『親のすすめ』。日本語を勉強すれば良い企業に就職できるという考えがある。ただ、受験人数に変化はないが、ここ4～5年で日本語を学習する熱が冷めてきており、今は英語に次いで中国語や韓国語の方が人気」とのこと。ベトナムからの距離が近く、就職先が多い中国や、政府や企業からの奨学金などの支援が豊富で、カルチャーが若者に人気である韓国の言語を学習する人が増加傾向にある。

USSH東洋学部日本研究学科のヴォー・ミン・ヴー 学科長によると、「給料は数パーセント上がっているが、それよりも物価が上がっている。海外留学を検討するにあたって学生が重視するのは、留学プログラムの価格と内容の費用対効果」とのこと。ベトナムでは基本的に奨学金がないと留学できない学生が多い。ベトナムから日本へ留学に来てもらうためには、まずは奨学金や学費免除などの制度を充実させることが課題である。

また、ベトナムでは英語学習が進んでおり、英語を話せる学生が多いため、留学先でも英語を使って学びたいと考える学生が多い。ベトナム人にとって日本語は他言語に比べて習得が難しい言語であるため、英語で学位取得可能な学部の整備などが課題であると考える。

ULIS の学部長らと

USSH の学科長らと

■ まとめ

プログラムの担当者である張特定助教は、「海外留学の第一歩として参加してもらいやすいプログラム。本プログラムへの参加を機に、いろんなことに挑戦していただけたら嬉しい」と話す。2024年度はサマースクールとして夏休みにプログラムを実施予定であり、6月6日（木）17時を

締切日とし、参加を募集している。今後も経済成長が見込まれる東アジア･ASEAN地域において、新たな発見をしてみるのはいかがだろうか。

【関連リンク】

2024年度プログラムの案内は以下のとおり。

【参加者募集（学内）】

多文化共学短期［派遣］留学プログラム

ベトナム国家大学ハノイ校サマープログラムについて（応募締切日：2024年6月6日（木）17時）｜京都大学アジア研究教育ユニット

https://www.kuasu.cpier.kyoto-u.ac.jp/blog/2024/05/21/vietnam-2024/

（広報課　大田桃子）

目次に戻る

京大広報
No.774

令和6年5月25日　発行
発行　京都大学渉外・産官学連携部広報課
〒606-8501 京都市左京区吉田本町
E-mail:kohho52@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

※ご意見・ご感想をお寄せください。
「京大広報」の既刊号は、次のURLでご覧いただけます。
https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/about/public/issue/kouhou/